

平成28年熊本地震における歯科医師と帯同した 宮崎JRAT所属の言語聴覚士の活動報告

— 誤嚥性肺炎リスク群への多職種協働にむけて —



歯科医師 4名 歯科衛生士 4名 言語聴覚士 2名

2019. 3. 19(Tue) 宮崎JRAT 言語聴覚士 横山茂幹

宮崎JRAT団体概要

- 代表 黒木洋美(宮崎大学医学部 医師)
- 副委員長 鈴木幹次郎(日南市立中部病院 医師)
財津由忠(都城市郡医師会病院 理学療法士)
- 事務局長 児玉睦代(訪問看護ステーションやわらぎ 言語聴覚士)
- 監事 河野寛一(潤和会記念病院 医師)
- 幹事 黒木俊光(古賀病院 作業療法士)
池田亜里沙(潤和会記念病院 看護師)
坂口和幸(芳生苑 介護支援専門員)
- 委員 中田富久(作業療法士) 岩村秀世(言語聴覚士)
山下達也(理学療法士) 横山茂幹(言語聴覚士)
中島幸次(看護師)



平時から歯科と言語聴覚士の協働



宮崎県における言語聴覚士の派遣体制

大規模災害リハビリテーション支援活動登録

宮崎JRAT

派遣者の選定
派遣者マッチング

派遣先の確定

JRAT

歯科医師会

口腔機能支援チームの活動目的

Policy

- 南阿蘇地区の地域住民支援
避難所等での口腔内トラブル支援
平時の歯科受診が困難な状況への支援
- 地元歯科診療支援
かかりつけ歯科機能を震災前に復旧

- ①避難所のアセスメントや口腔体操
- ②在宅訪問
- ③福祉避難所(介護施設等)訪問



福祉避難所（介護施設など）訪問班

Needs

- 断水地域、福祉避難所、地元歯科医師が訪問歯科診療していた地域
- 地元の歯科医師が再開し、機能を担えるまでの支援活動

熊本県 人口 1,794,623名

要介護認定者（災害時要配慮者） 102,549名

要支援者 28,660名 要介護者 7,3889名

摂食嚥下障害者 14,777名

要介護高齢者の約20%が摂食嚥下障害者（深井，2007）

南阿蘇 人口 10,883名

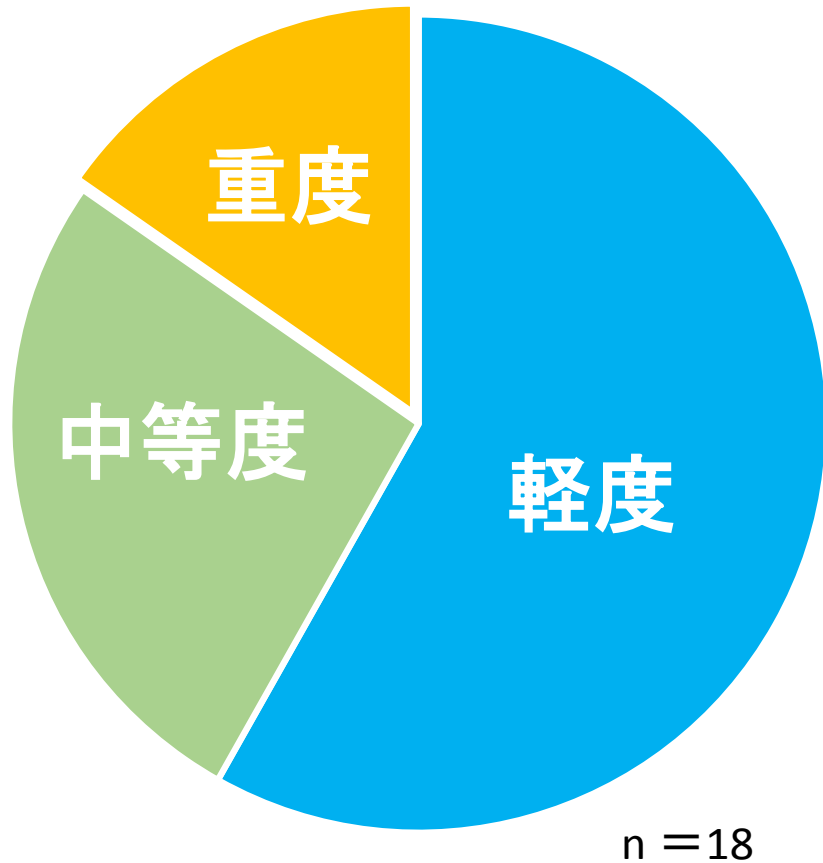
要介護者 446名

摂食嚥下障害者 89名



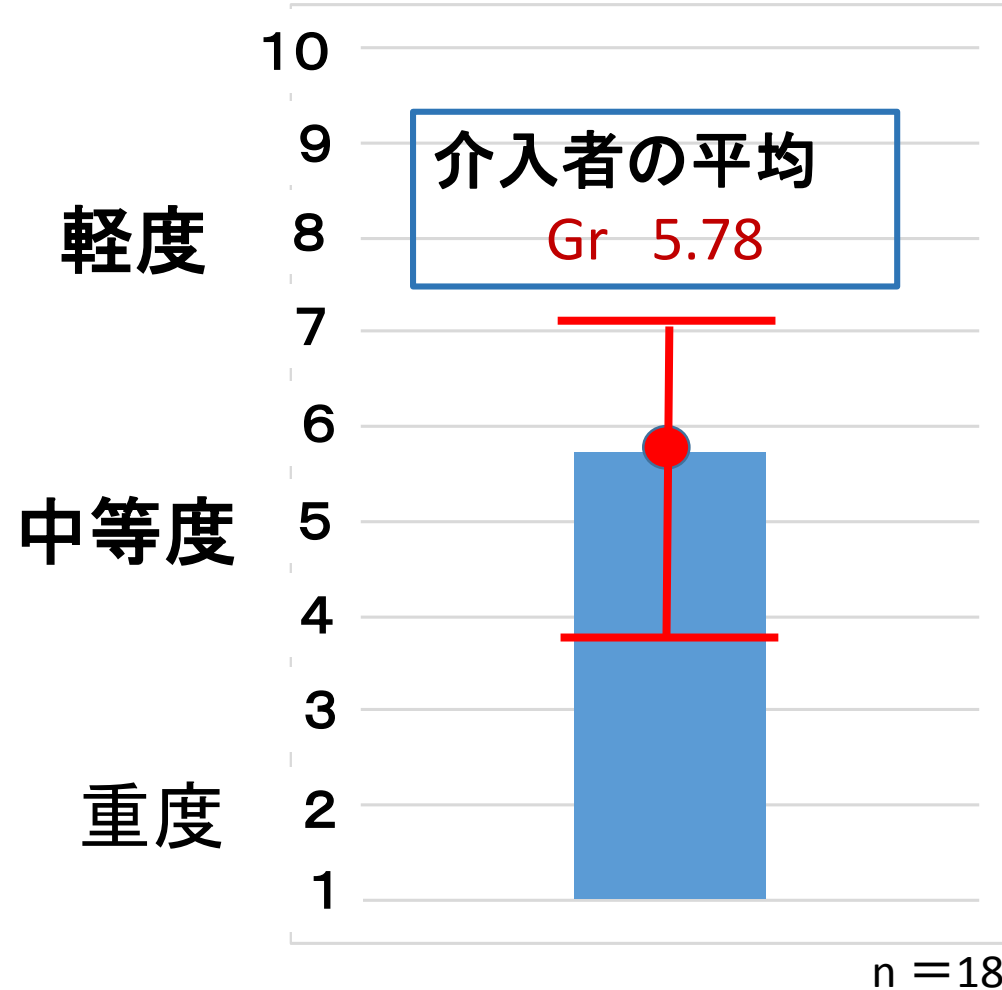
食事形態の配慮

嚥下障害の重症度の割合



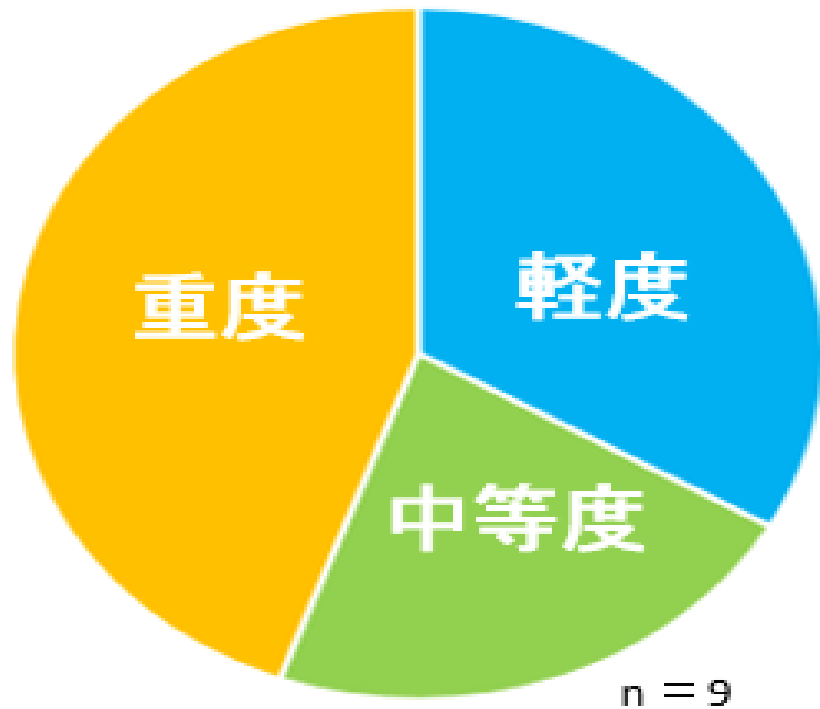
摂食嚥下能力Gr

Gr 嚥下食を食べているレベル

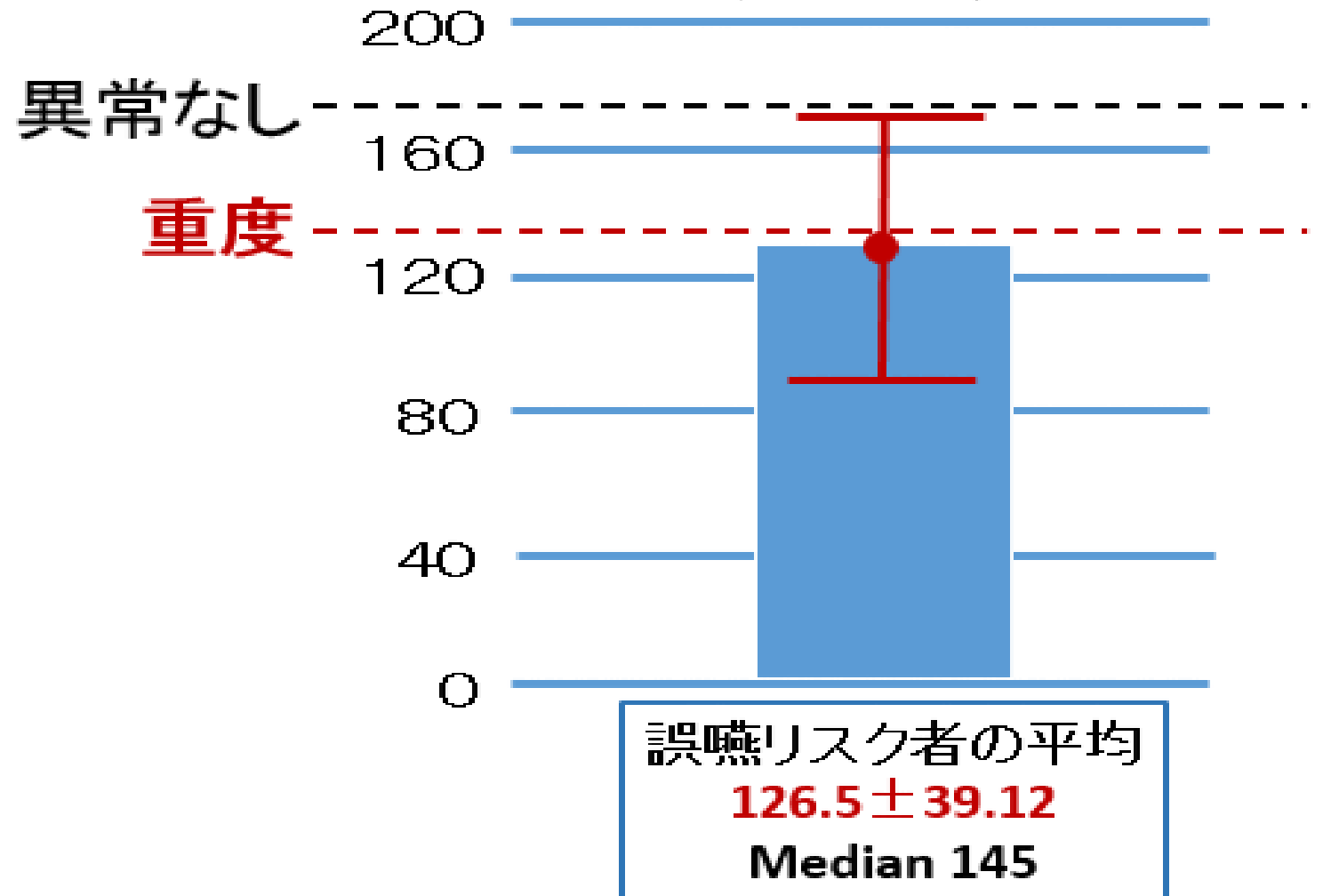


誤嚥リスク評価

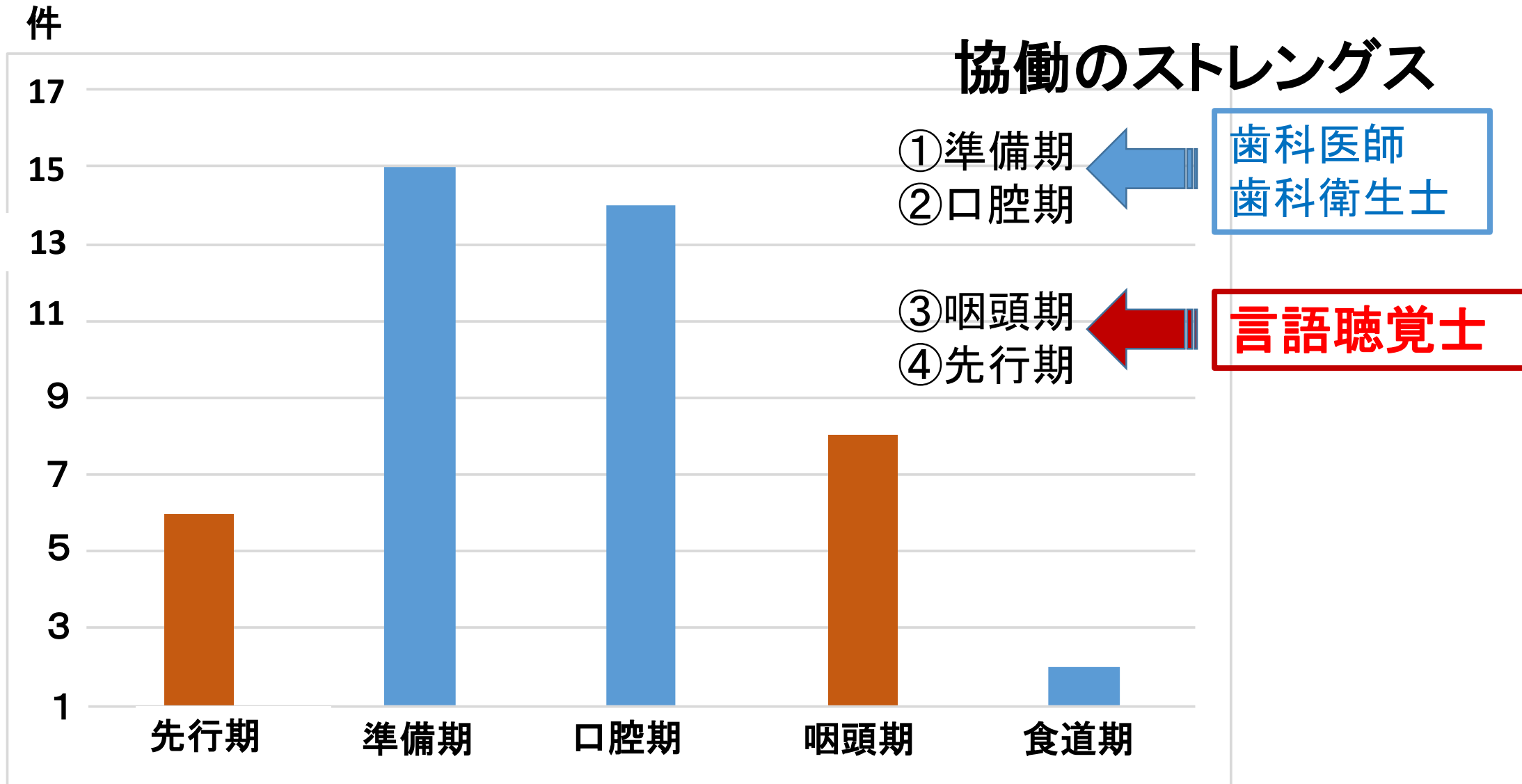
誤嚥リスク重症度 (MASA)



誤嚥リスク評価 (MASA)



摂食嚥下過程における問題点



大規模災害後は、肺炎の罹患率が増加し、
震災関連死が増加するとされる

(Takakura, 1997 Aoyagi, 2013)

多職種と食を支える協働アプローチ



リスク評価



食事形態



食事姿勢



廃用症候群の予防

地元専門職と繋ぐ



共通ツール



現場での協働



地元歯科医師へひきつぎ

*** 地元専門職の意向をふまえ 繋ぐ 取り組み**

災害時の言語聴覚士の役割

●JRAT派遣のストレングス

日常生活動作をふまえ

コミュニケーション 摂食嚥下支援につながる



●歯科医師と帯同派遣のストレングス

歯科疾患や嚥下障害者のピックアップし

摂食嚥下の生活支援につながる

平時からの連携

- 多職種 宮崎県防災訓練
二次医療圏ごとに受援者側の研修(HUG REHUG)
災害時支援の連携や各職能団体との災害時の協定
- 行政 災害時の要援護者登録制度
一般・福祉避難所調査
- 住民 家屋調査時の避難経路確認
地元消防団へ車いす移乗動作
- 同職種 被災状況の緊急連絡
宮崎県言語聴覚士会マニュアル

